

# 新課程における共通教科情報の教科書に関する特徴(情報の科学)

出版社	番号	教科書名	特徴	
東京書籍	情科301	情報の科学	授業に合わせて教科書の内容を選択することができるよう、教科書を実習編と理論編の2部構成にしました。また、授業に必要な内容をすぐに探し出せるように、用語集と索引に多くの語句を収録しました。	
			実習編は、1時間で完結する扱いやすい実習を中心に構成し、フリーソフトについてはソフトウェア名を記載しました。(11ページほか)	
			防災などの観点から、生活に役立つ題材を取り上げました。(26～27ページほか)	
			理論編各章の最後には、生徒が章の知識を確認するためのまとめと章末問題のページを設けました。(72～75ページなど)	
			基本的な内容や重要な資料は、何度も繰り返して扱うことを想定して、巻末の資料編にまとめました。(140～160ページ、⑧)	
			情報モラルマークやリンクマーク、Q&Aなどを設けて、教科書の機能性を高めました。(1ページ「この本の使い方」を参照)	
			中学校における情報教育の指導時数減に対応するため、ソフトウェアの基本操作を意識した実習を設けました。(30～35ページ)	
			教科書全体を通してカラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮して編集しました。裏表紙にその旨を記載しています。	
実教出版	情科302	最新情報の科学	例題を中心に学習事項を展開した授業と一体化した紙面展開	
			グッピーの増加率や $\pi$ の計算、確率など理科や数学を題材としたモデル化とシミュレーションの例題を扱った	
			データベースに関する実習をACCESSとEXCELの両方で取り上げ、どちらのソフトウェアでもできるように配慮した	
			難易度が高い項目も丁寧に解説し、考え方やポイントを押さえながら教科書に沿って展開できるように編修した	
				情報倫理など公民科や統計処理と分析など数学科との連携を図れる題材を扱った
	情科303	情報の科学	ホップ、ステップ、ジャンプでテーマによって到達度を設定できる紙面展開	
			学習指導要領の構成をホップ、ステップ、ジャンプの3段階に再構成した配列	
			ホップ → 体験(簡単な実習) ステップ → 理論(必要最小限の理論) ジャンプ → 実践(応用的な実習)	
			パリティチェックなどのデジタルに関する考え方をコンピュータを使わない手法(アンプラグド)で解説した	
			数独(パズル)の自動解法プログラムをVBAで作成するなど楽しみながら学習できるテーマを中心に構成した	
数研出版	情科304	高等学校情報の科学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○できるだけ身近な事例や最新の事例を取り上げ、興味を持続して学習できるようにしました。(例:Facebook, Twitter, ジオタグなど)</li> <li>○学習の進度に応じて、実習を豊富に入れ、知識や技術の整理・確認をしながら、実践力や応用力を養えるようにしました。</li> <li>○「情報の科学」でも、著作権などの情報モラルをしっかり扱っています。</li> <li>また、携帯電話の扱いの注意点、情報機器の使用時の注意点も扱った。</li> <li>○検索エンジンの使い方・メディアの意味を序編で詳しく扱っています。実物大のキーボードを掲載し、日本語入力の再確認ができるようにしました。</li> </ul>	
日本文教出版	情科305	情報の科学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の技術や情報社会における新たな課題を積極的に取り上げ、資料性豊かな教科書にしました。情報Bからの発展としてふさわしい充実した内容になるよう努めるとともに、正確な記述となるよう細心の注意を払いました。</li> <li>・多岐に渡る学習内容を2編構成にまとめました。前半の「ネットワーク編」は基礎となる理論的な学習内容。後半の「問題解決編」は、実習を行いながら問題解決を学んでいくことを想定しています。</li> <li>・「MECE」、「ロジックツリー」など、企業で活用されている問題解決の手法や考え方も紹介しています。</li> <li>・知的財産権や個人情報保護法、不正アクセス禁止法のほか、情報社会に関連する法律についても扱い、「情報の科学的な理解」と「情報社会に参画する態度」とのバランスにも配慮しています。</li> </ul>	

注: 開隆堂と第一学習社は「情報の科学」は未発行